

PAVEシステム Ver6.3

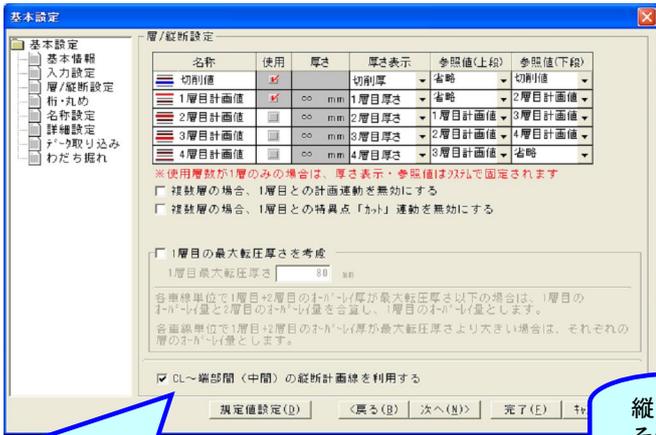
PAVEシステム Ver6.3の主な仕様内容

- 切削オーバーレイの縦断データ位置を「センター」「端部」に加え「車線の間」を指定できる機能を追加しました。
- 切削オーバーレイの縦断図において、同一箇所のシミュレーションを2つまで併記できる機能を追加しました。
- 横断図の厚さ表記について、実測値と計画値との差を表示できる機能を追加しました。
- 既に計画した切削オーバーレイのデータを利用し、出来形データを作成する機能を追加しました。
- キーボードのシフトボタンを利用することで、複数測点・複数横断ポイントの削除機能を追加しました。
- 規定値の「保存」「設定の反映」処理を「基本設定」に「出力設定」に分けて行うように変更しました。

縦断データ位置の「中間」の追加

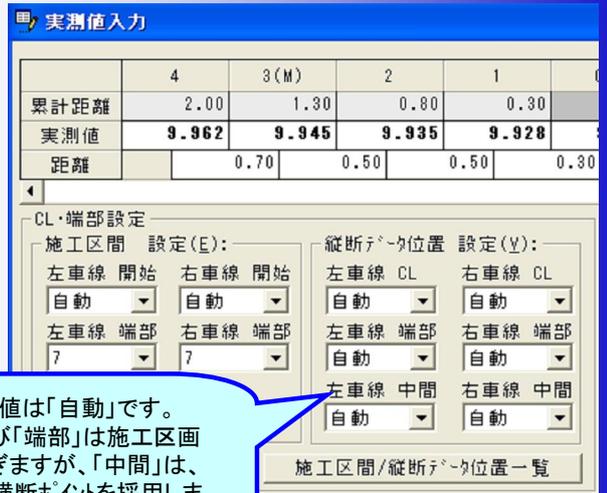
- ・縦断データ位置について「センター」「端部」の間に「中間」を設置することができます。
- ・「中間」でも縦断計画が行えます。

▼基本設定画面

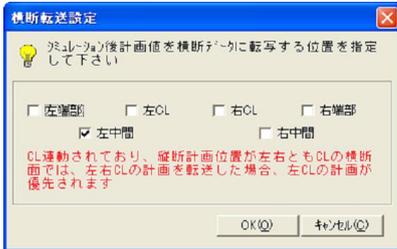


基本設定画面の「層/縦断設定」画面で「CL～端部間(中間)の縦断計画線を利用する」のチェックボックスにチェックマークをつけると、中間の縦断データ位置が有効になります

▼実測値入力画面

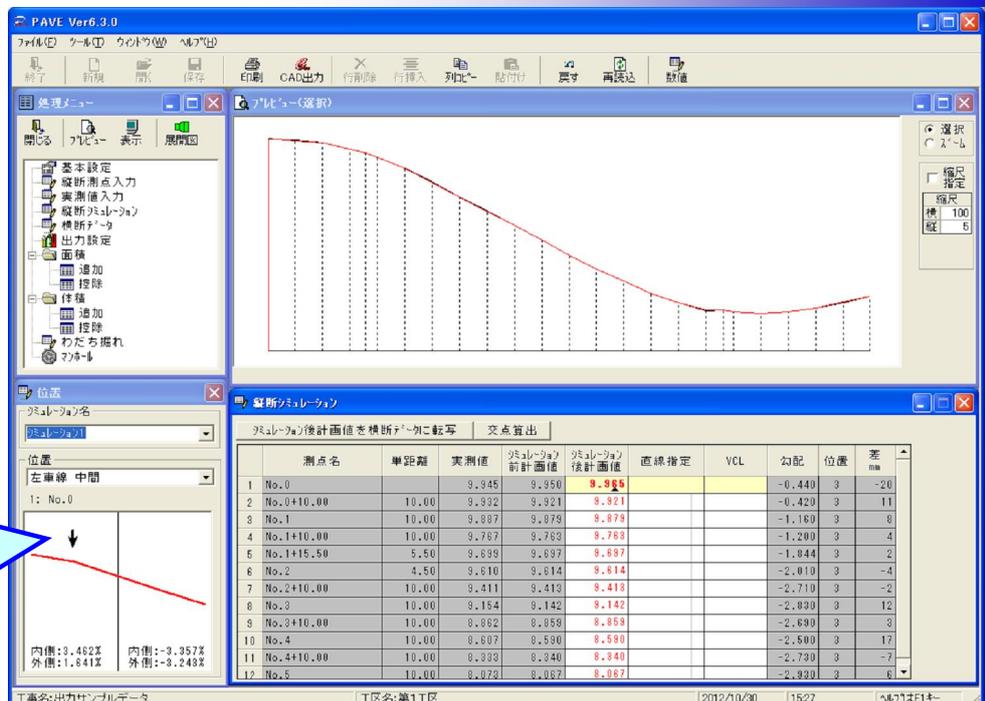


縦断データ位置の初期値は「自動」です。その場合、「CL」および「端部」は施工区間の値をそのまま引継ぎますが、「中間」は、車線中央に最も近い横断ポイントを採用します。



▲横断転送設定画面

「中間」でも縦断計画は行えます。その場合、車線勾配は車線の「内側」「外側」で表示されます。また、それぞれ個別に横断図に転送することが可能です。

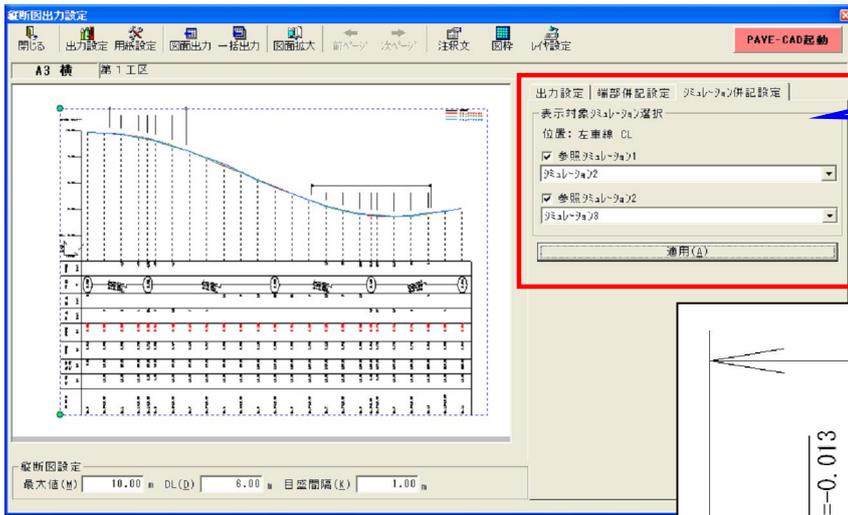


▲縦断シミュレーション画面

縦断シミュレーションの併記

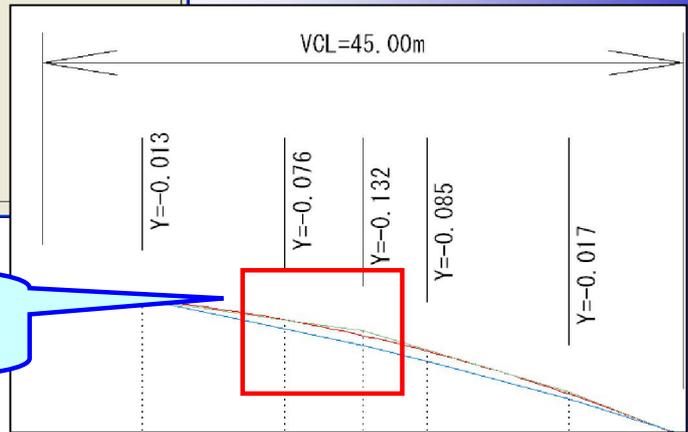
・切削オーバーレイの縦断図において、同一箇所のシミュレーションについて2つまで併記することができます。

▼ 縦断図設定画面



同一箇所のシミュレーションを2つまで選択し併記することが可能です。

この図は、シミュレーション1が赤、シミュレーション2が緑、シミュレーション3が青となっています。

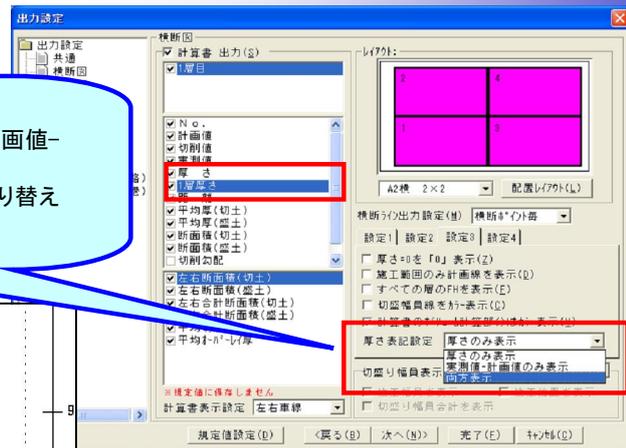


▲ 出カイメージ

実測値と計画値との差を表示

▼ 出力設定画面

各層厚さの出力は有効にして下さい。
厚さ表記設定は、通常の「厚さ」と「実測値-計画値(計画値-実測値)」を表示できます。
「実測値-計画値」「計画値-実測値」の計算方法の切り替えは[基本設定]の[詳細設定3]で行えます。



上記の出力設定により、各層の厚さに加え、「実測値-計画値」の結果を表記します。

No.	8	7	6	5	4	3	2	1	CL
計画値		9.997	9.991	9.981	9.967	9.950	9.937	9.925	9.918
切削値		9.947	9.941	9.931	9.917	9.900	9.887	9.875	9.868
実測値	10.000	9.997	9.990	9.977	9.962	9.945	9.935	9.928	9.918
1層厚さ		50	50	50	50	50	50	50	50
実測値-計画値		0	-1	-4	-5	-5	-2	3	0
距離		0.80	0.25	0.40	0.60	0.70	0.50	0.50	0.50
平均厚(切土)			0.050	0.048	0.046	0.045	0.047	0.051	0.052
平均厚(盛土)			0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050
断面積(切土)			0.013	0.019	0.028	0.032	0.024	0.026	0.016
断面積(盛土)			0.013	0.020	0.030	0.035	0.025	0.025	0.015
勾配			2.431	2.431	2.431	2.431	2.431	2.431	2.431
左断面積(切土)		0.158							
右断面積(切土)						0.163			
断面積(切土)		0.158				0.163			
左断面積(盛土)									0.300
右断面積(盛土)									0.326
断面積(盛土)									0.326
平均切削厚									
平均削がれ厚									

▲ 出カイメージ

出来形データを作成

・「切削オーバーレイ」で作成したデータ(計画値・切削値)を元に、出来形データを作成します。

データ選択画面で、「切削オーバーレイ」データを選択すると、「出来形」ボタンが表示されます。

出来形を計算する対象を選択します。「計画値」を選択した場合は、「基準高」および「厚さ」の出来形を算出します。「切削値」を選択した場合は、「基準高」のみを算出します。

出来形図面を作成する対象を選択して下さい。

計画値
切削値
計画値

OK(O) キャンセル(C)

▲データ選択画面

▲出来形対象選択画面

▼出来形データ入力画面

この画面で、施工後の出来形管理位置の高さを入力します。

施工後の計測高と計画値との差より算出した出来形を図面中表示します。

出来形管理位置を指定します。

測点名	左幅	右幅	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4
No.0	8.85	8.76			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.0+10.00	3.75	3.85			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.1	5.70	3.80			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.1+10.00	5.75	4.00			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.1+15.50	5.70	3.80			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.80
No.2	5.50	3.80			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.2+10.00	5.55	3.80			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.3	4.80	3.80			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.3+10.00	4.80	4.15			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25
No.4	3.80	4.15			3.25	2.00	0.00	0.00	2.00	3.25

▲出来形管理位置指定画面

位置

位置	2	1	CL	CL	1	2
施工前現況	9.997	9.962	9.918	9.918	9.859	9.813
計画値	9.997	9.967	9.918	9.918	9.853	9.813
測定値	9.966	9.966	9.918	9.918	9.853	9.813
計画値(下層)	9.947	9.917	9.868	9.868	9.803	9.763
測定値(下層)	9.950	9.919	9.869	9.869	9.805	9.76
基準高偏差	-1	-1	0	0	0	0
厚さ	46	47	49	49	46	4
距離		1.25	2.00	2.00	1.25	

▲出力イメージ

複数測点・複数横断ポイントの削除

・キーボードのシフトボタンを押しながら測点や横断ポイントを選択することで、削除対象を複数指定することが出来ます。

▼縦断測点の場合

削除対象の開始位置をクリックします。

ツールボックスの「削除」ボタンか、メニューの「削除」コマンドを実行すると、反転した測点が削除されます。

キーボードのシフトボタンを押しながら、削除対象の終了位置をクリックします。開始位置から終了位置の間の測点が反転します。

測点名	+No	単距離
No.0		
No.0+10.00		10.00
No.1		10.00
No.1+10.00		10.00
No.1+15.50		5.50
No.2		
No.2+10.00		
No.3		
No.3+10.00		
No.4		
No.4+10.00		
No.5		

▼切削横断ポイントの場合

削除対象の開始位置をクリックします。

ツールボックスの「削除」ボタンか、メニューの「削除」コマンドを実行すると、反転した横断ポイントが削除されます。

キーボードのシフトボタンを押しながら、削除対象の終了位置をクリックします。開始位置から終了位置の間の横断ポイントが反転します。

累計距離	6	5	4	3	2	1	CL	CL	1	2
実測値	9.990	9.977	9.962	9.945	9.935	9.928	9.918	9.918	9.909	9.892
距離	0.40	0.80	0.70	0.50	0.50	0.30	0.40	0.40		